

SPECIAL

当院の感染症診療

Part 1 感染症内科

当院の感染症科の歴史は非常に古く、明治期にさかのぼります。1980年から2004年までの25年間は、南が丘分院にて診療が行われてきましたが、感染症法の改正などに伴い、2004年に分院は廃院となり当院に統合されました。2007年5月には一種・二種感染症病棟が開設され感染症行政医療を担う道内唯一の「一類感染症対応医療機関」としてスタートしました。幸い一類感染症はまだ発生していませんが、感染症病棟では2009年の新型インフルエンザ流行期に、道内初の感染患者の入院受入と、発熱外来を開設し約140名の患者さんの治療に当たりました。

現在感染症内科は私1人のみで、輸入感染症やHIV感染などの診療のほか「渡航者ワクチン外来」を行っています。この他にICT委員長として、院内の感染症コンサルテーション、抗菌薬の適正使用支援、アウトブレイク発生時の対応などInfection control team (ICT) と共にあたっています。

渡航者ワクチン外来と輸入感染症の診療について

当院で接種可能なワクチンは狂犬病、破傷風、A型肝炎、B型肝炎、日本脳炎、ジフテリアです。なかでも狂犬病ワクチンは、道内で国産ワクチンを扱う唯一の病院であり、遠方からの受診者も多いです。国内未承認ワクチン（髄膜炎、コレラ、腸チフスなど）は残念ながら扱っていませんので、輸入ワクチンを取り扱っている医療機関の受診が必要になります。ワクチンはすべて自費で特に狂犬病ワクチンは、1万2千円と高額ですので、ワクチン受診者をご紹介いただく際はご説明いただけると幸いです。

感染症内科を受診される患者さんは、海外旅行帰りが多く、昨年は熱帯熱マラリア1名、デング熱3名を診療しました。他に日本海裂頭条虫、梅毒などの紹介患者さんも多かったです。当院ではマラリア、デング熱の診断を容易にするため、診断簡易キット（保険適応外）を導入しています。また、熱帯病治療薬研究班の指定病院でもあり、国内未承認の治療薬の提供を同研究班から受けており、日本では見られない熱帯病の対応が可能となっています。昨年は、再発性大腸アメーバに対してパロモマイシン使用症例も経験しました。

海外渡航歴のある輸入感染症疑い例はどうぞご相談ください。

感染症内科外来

月・水（13時～15時）
海外渡航予防接種

感染症内科
部長

永坂 敦



血流感染カンファレンスでのディスカッション

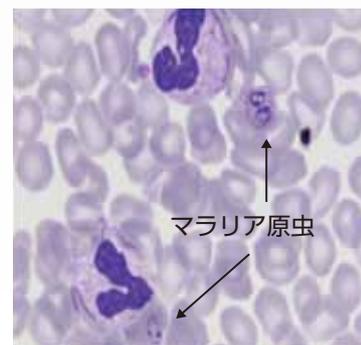
抗菌薬適正使用の取組み

もう一つ感染症内科の、院内感染制御への取組みを紹介します。

2010年から院内の抗菌薬使用の適正化をめざし、細菌検査室と薬剤部とで週2回、血液培養陽性患者に対する抗菌薬選択、投与方法のモニタリングを行っています。そこで抗菌薬の選択、使用方法に問題ありと判断された場合、主治医に連絡しアドバイスをしています。また、今年の8月から研修医の抗菌薬への理解を深める目的で、抗菌薬認定薬剤師と細菌検査室の協力を得て、系統的な抗菌薬の勉強会を始めました。

参加は自由です。興味のある先生方は、感染症内科永坂までご連絡ください。

今後も、感染症でお困りの症例について、気軽に相談いただける、よりよい診療を提供できる科を目指していきたいと考えております。



マラリア原虫